



富士山の 森づくり

＼みんなで学ぼう 100年の森づくり！

発行：NPO法人 木netやまなし
協力：公益財団法人オイスカ

本冊子は公益財団法人
やまなし環境財団の助成
を受けて作成したものです。



お問い合わせ・ご質問

NPO法人 木netやまなし
〒400-0016 山梨県甲府市武田1-2-5 3階
Tel/Fax 055-267-5951



世界文化遺産 “富士山”

“富士山”

2013年、富士山は世界文化遺産にとりくされました。富士山の美しい姿は、昔から、また神さまのいる山として大切にされてきました。そうして守りつづけてきたので、

詩や歌によまれたり、絵にえがかれたりしてきました。その大切さが世界中の人々にみとめられたのです。

君のイメージする富士山はどんな姿かな？



このように、世界中の人たちがみりよくを感じている富士山で、わたしたちは“森づくり”をしています。富士山でどのようなことをしているのか、これからいっしょに、学んでいきましょう。



富士山にも森はあるの？

富士山は、日本で一番高い3,776mの山。世界中から人がおとずれます。そんなに高い山にも森があるのでしょうか。



考えてみよう！ 富士山の森はどこにある？ 富士山の森ってどんな森だろう？



人工林



天然林



樹海



じつは富士山には、ふもとから五合目あたりまで森があります。とても高い山なので、高さによってさまざまなしゅるいの木や植物が生えています。

富士山の森には、富士山がふん火したあと、自然の力でできあがった樹海などの天然林と、木を使うために人によって植えられた人工林があります。なんと、そのわりあいは天然林が55%、人工林が45%で半分近くが人工林なのです。人工林の多くは山梨県が、かんりしています。



どうして森づくりをしているの？



富士山の人工林には、冬になっても葉が緑色のままの「シラベ」という木や、寒さから身を守るために葉を落とす「カラマツ」という針葉樹が多く植えられています。



シラベ



カラマツ

しかし、2002年、シラベの森で大へんなことが!!

トウヒツツリヒメハマキというガの幼虫が大発生してシラベの葉っぱを食べてしまい、東京ドームの20倍の広さの森がかれてしまったのです。シラベばかりが植えられている場所だったので、ひがいがいっきに広がってしまいました。



トウヒツツリヒメハマキの幼虫



かれたシラベの木

そこで、わたしたちは、虫のがいを受けた場所で、森をふたたびとりもどすプロジェクトをスタートさせたのです。



こんな森づくりをするんだ!

1 早く元気な森をとりもどそう

木がかれた場所はほうっておいても、いつか森にもどるかもしれませんが、でも、少しでも早く元気な森にもどすために、わたしたちの手で苗木を植えて育てています。



2 みんなが同じほうほうで森づくりをしよう

森がもつはたらきを十分にはっきりできるように、森づくりのルールを決めています。活動地に合った木のしゅるいを研究者にえらんでもらい、植え方や育て方もおしえてもらっています。



3 美しい富士山を守ろう

大切にされてきた富士山のけしきを守るため、元気で美しい森をめざしています。それは、針葉樹と広葉樹がまざった、色どりゆたかで生き物もたくさんする森です。



4 森について多くの人に知ってもらおう

森のはたらきやめぐみを知ってもらうために、たくさんの人に森づくりにさんかしてもらっています。富士山だけでなく世界中の森が大切なことに気づいてほしいのです!



5 山ではたらく人も、町も元気になってもらおう

森づくりでは、山ではたらくプロにも助けられています。みんなが森づくりにさんかし、おうえんしてくれることで、山ではたらく人や地いきの人も元気をもらっています。



こんな森にしたい!



天然林 のような森

自然の力でできあがった、まわりにある天然林と同じような森をめざしています。そのような森は、強風や虫のいにも負けることが少ないからです。



針葉樹と 広葉樹のある森

針葉樹と広葉樹の両方が生えている森は、さいがいをふせいだり、おいしい水のみなもとになってくれたり、森のはたらきをしっかりとっきしてくれます。



さまざまな生きものが すめる森

植えた木に実がなれば生きものたちが食べ、そのタネを遠くへ運んでくれます。そうして、また新しい草木が森に生えて、さまざまな生きものが住むゆたかな森になります。



イラスト：蒲原久雄氏 活動地設置看板より抜粋

〈開始時〉 → 〈現在〉 → 〈100年後〉

同じしゅるいの針葉樹(シラベ)ばかりだった森の一部をきり、いろいろなしゅるいの広葉樹を植えました。

植えた木の手入れをしながら、成長を見守っています。

人や生きものにめぐみを与える、ゆたかな森をめざしています。

どうやって森をつくっているの?



どんな木を植えているの?

まわりの天然林でよくみられる広葉樹を5しゅるいえらび、そこからタネをあつめて苗木をそだてました。



フナ



ミズナラ



ヤマハンノキ



ヤマザクラ



カエデ

ココがポイント!

自然の森に近づけるため、タネは、活動地の近くにある木からもらったよ!

ココがポイント!

えらんだ木はどれも実のなる木。大きくなって木の実をつけたら動物たちのエサにもなるよ!



どうやって植えているの?

苗木はおおよそ3m×3mの広さに1本のわりあいで植え、シカに食べられないようにネットをとりつけています。



根巻き苗



植栽(しよくさい)



シカよけネット

ココがポイント!

富士山のきびしい自然かんきょうでもしっかりねづくよう、苗木の根に土をつけたまま植えることができる「根巻き苗」を使っているよ!



植えたあともなにかするの？

■モニタリング調査

植えた木の成長やまわりの自然の変化などをしらべ、次の活動にいかしています。このような活動のことを「モニタリング調査」とよびます。



太さをはかる



高さをはかる



シカのせいたいをしらべる

ココがポイント！

植えた木の成長だけでなく、森づくりの場所にどれくらいシカが来ているのかもしらべているよ。



みんなの身体測定と同じだね！



■手入れ

富士山のきびしい自然の中で、植えた木が強い風でたおれたり、シカに葉っぱを食われてしまうことがあります。たおれた木を起こしたり、シカよけネットを直したりするのも、大切な作業です。



風でたおれた木



木を起こしネットを直す



除伐(じよばつ)作業

ココがポイント！

苗木のまわりに自然に生えてきた木がじゃまになっているときは、そのえだを切ったりして、日があたり大きくなるように、くうかんを広げているよ！

だれが森づくりにさんかしているの？

虫のがいをうけた森は、とても広い森でした。その森を元気な森にかいふくさせることはかんたんではありません。そこで、なかまと力を合わせることにしました。



富士山の森づくりのきょうりょくしゃ



森づくりにひつようなことをみんなで話し合っ、役わりを分たんし、それぞれがとくいなこと、できることをいかしています。このテキストを作った「木 net やまなし」もそのなかまの一員です。みんながきょうりょくすることで、広い富士山の森を元気にすることができるのです。



さがしてみよう!

「富士山の森づくり」の活動地に 住む生きものたち

森づくりでは、森も、そこにくらす生きものたちもみんなが元気になれる、ゆたかな森をめざしています。

草花

花の色や、葉っぱのかたちを手がかりにしよう



フジアザミ



クマイチゴ



ヤマホタルブクロ

こん虫

木々のあいだや草かげに目をこらしてみよう



アサギマダラ



カラスアゲハ



ミヤマクワガタ

鳥

鳴き声に耳をすませてみよう



ウグイス



カッコウ



キジ

ほ乳るい

木をかじったあとやフン、すあなをさがしてみよう



ニホンジカ



キツネ



ノウサギ

どんな生きものがいるかな?



ゆたかな森は、生きものたちの住みかになるだけでなく、私たちにもきれいな空気やおいしい水など、たくさんの「めぐみ」とどけてくれます。

それに、大雨がふっても、森は水をたくわえて洪水をふせいでくれたり、土砂くずれをおこりにくしてくれます。「富士山の森づくり」は、たくさんのおくりものをくれる森へのおんがえしでもあるのです。